

は解体する。事業スケジュールは、2023年6月から12月まで施設解体、23年6月から25年3月まで設計・建設、開業準備期間を経

拒限額は2億2327万3000円。内訳は、設計・整備などの費用18億5100万円、スポーツ施設の指定管理費用6億7200万円、都市公

園の指定管理費用1億27万3000円（いずれも税込）。

通常開催は4年ぶり、今年度のテーマは、「コンクリート構造物の健康寿命を延ばし、脱炭素社会の構築に寄与する」。

主催者あいさつで徳納会長（福徳技研）は、「あらゆる分野で脱炭素社会の構築に向けた検討が進む昨今、セメント製造時に二酸化炭素を多く排出するコンクリートの分野

減らすことで脱炭素社会の構築につながると私たちが考えており、今回のフォーラムではそのための考え方や調査、点検、補修の技術をご紹介します。事後保全から予防保全への移行に向け、今回の内容が技術者の皆様の光明となることを確信している」と述べた。

講演ではまず、中国地方整備局道路部の高口敏弘道路保全企画官が「国土交通行政の最新動向について」と題し、国の23年度予算概要や笹子トンネルの事故後10年間の取

組み、今後の道路メンテナンスのあり方などを紹介したほか、近未来コンクリート研究会の十河茂幸代表は、「予防保全を目的としたコンクリート構造物の点検要領」をテーマに、現在中心となっ

ている事後保全から脱却し、予防保全を目指すことの重要性、そのための手法について持論を展開

は、「歴史的構造物の保存・修復」鉄筋コンクリート造の現状と課題」について語るなど、産学官から2日間で延べ11人の講師が登場し、さまざまな立場から補修に役立つ最新技術の解説を行った。

コンクリート協会メンテナンス

補修・補強フォーラム2023が始動

徳納会長「予防保全への光明に」

コンクリートメンテナンス協会（徳納剛会長、写真）は「コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2023」を広島市中区のJMSアステールプラザで開

催。11日と12日の2日間

で延べ約1000人が来場した。今後、8月末にかけて東京、大阪、福岡など全国10会場で開き、コンクリート構造物長寿命化のための最新知見を披露する。

入場制限等を行わない

安来市は15日、「令和5年度安来市森林航空レーザ計測・資源解析

申込書26日まで

市

成」の認定を受け、広島県内に営業所を有するこ

広島大専門学生17人が参加

設工業

せた同工事は現在、橋脚を囲む形で打設されたシ

度安来市森林航空レーザ計測・資源解析

申込書26日まで

市ポ

来口

と。

成」の認定を受け、広島県内に営業所を有するこ

広島大専門学生17人が参加

設工業

せた同工事は現在、橋脚を囲む形で打設されたシ

度安来市森林航空レーザ計測・資源解析

申込書26日まで

市ポ

来口